

皇室の宝物：三の丸尚蔵館

数世紀にわたって皇室の一族によって受け継がれてきた三の丸尚蔵館の多くのアイテムは、日本で最も貴重な傑作の中に数えられます。この美術館のコレクションには、書道、巻物、屏風から彫刻、陶器、刀にまで及びます。

美術館は最初に皇居の敷地内に 1989 年に設立されました。その際、昭和天皇の崩御を受けて、皇室から約 6,500 点の美術品が国に寄贈されました。1993 年に一般公開されました。秩父宮妃、香純皇后、高松宮妃、三笠宮妃からの追加の贈り物は、それ以来、博物館のコレクションを拡大しました。これらの多くは木材、紙、絹などの傷みやすい素材で作られており、非常に壊れやすいですそのため、多くの作品は限られた期間のみ展示されます。

一般公開されてきたのは、尚蔵館のコレクションの作品の半分未満であり、これまでに見たことのない何千もの宝物が順番を待っています。その結果、三の丸での各展示は、日本のことわざ「一期一会」を思い起こさせるユニークな体験となります。このことわざは「一生に一度の出会い」と訳され、つかの間の人生の繰り返せない瞬間、特に卓越した芸術との出会いの貴重さを表しています。三の丸での展示は全く同一のものはありませんし、訪れる人々は同じ作品を見ることはないかもしれません。

コレクションは、1868 年以前の作品、1868 年以降の日本の作品、1868 年以降の日本以外の作品の 3 つの主要なカテゴリに分けることができます。1868 年以前制作の作品群には少なくとも紀元前 4 世紀にさかのぼる芸術作品が含まれていますが、多数の作品は徳川幕府に支配された江戸時代(1603–1867)に手に入れられたものです。1868 年に天皇が政治的実権を取り戻したとき、皇室は国の近代化の一環として多くの芸術作品を依頼しました。新しい日本の国家はまた、200 年以上の鎖国の後に外交関係を拡大したため、他の国から多くのアイテムを贈られました。

尚蔵館は、徳川幕府(1603–1867)の権力の座であった江戸城を含む、より大きな皇居の敷地内にあります。1868 年の幕府の倒壊後、天皇は京都から新たな首都である東京へ移り、江戸城に居を構えました。現代の皇居内の多くの場所は、かつての城の構造物からの名前を引き継いでおり、その中に三の丸尚蔵館も含まれます。博物館は、かつて江戸城の三ノ丸、つまり城の最も外側の要塞壁に隣接するエリアに建てられました。

改装された博物館は、現在の宮殿のスタイルを反映するように設計されました。新しい建物は、モダンなシンプルさと、ダイヤモンド模様の装飾、緑青の屋根、軒からの雨水を導く装飾的な鎖などの伝統的な建築要素とを組み合わせています。

尚蔵館は、何世紀にもわたってほとんど見られなかった芸術の山を一般の人々と共有しています。昭

和天皇が崩御され 1989 年に平成時代が始まり、皇室は一般の人々に近づくために特別な努力をしました。尚蔵館の創設は大事な一歩でした。この美術館の大規模なコレクションは、日本の皇室の歴史と芸術的嗜好の記録を提供し、千年以上にわたって芸術において彼らが中心的な役割を果たした象徴となっています。千年前に天皇の目を楽しませたのと同じ芸術作品を、今日では三の丸尚蔵館の誰もが見ることもできるかもしれません。